

萩市の歴史的まちなみ 重要伝統的建造物群保存地区



萩 市

中国地方8カ国112万石を領していた毛利輝元が、慶長5年（1600年）の関ヶ原の戦いで敗れ、防長2カ国36万石に削封され、広島から阿武川河口の萩の地に築城して藩政府を開設し、城下町を築いたことが萩市の始まりです。城は、慶長9年（1604年）6月1日につくり始め、4年後の慶長13年（1608年）6月に完成しました。同時に城下の町割も行われ、武家地や町人地、寺社地、港町などの市街地が形成されました。

萩城の構成は、指月山麓に城のある本丸を中心に二の丸・三の丸を設け、その間を内堀・中堀・外堀が配置されました。二の丸には、毛利家ゆかりの社寺や武具蔵が置かれ、三の丸には、毛利一門や家老、寄組等の大身の武家が屋敷を構えました。城下町の町割は、東側に町人地や寺社地を、南側に中・下級の武家地を、三角州の北東端の砂洲に港を設け蔵や商家を配置しました。

その後天災や戦災を受けず、大規模な工業開発も行われなかったこと、鉄道が市街を迂回して建設されたことなどから、現在も武家屋敷や土堀、町家、蔵などの藩政時代のまちの姿や歴史的な資源が数多く残っています。萩市は今でも江戸時代の地図がそのまま使える歴史的まちなみを有する数少ない都市となっています。この歴史的まちなみのうち、旧萩城三の丸が「堀内地区」として、また外堀南側の武家地が「平安古地区」として、さらに三角州の北東端の港町が「浜崎」として、文化庁により国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されています。

全国には、古代、中世の歴史を代表する都市として奈良市、京都市及び鎌倉市等がありますが、萩市は近世を代表する歴史的都市であるとして国内外の高い評価を受けています。



田床山からの全景

歴史的まちなみ保存の取組

萩市は、昭和初期より城下町のたたずまいや明治維新の歴史的遺産を資源とした観光都市としての発展を目指してきました。しかし、昭和30年代後半の高度経済成長期になると、観光施設や住宅を建てるために堀内や平安古の土堀や武家屋敷が取り壊され、歴史的環境は徐々に崩れていきました。元来、歴史上の意義を有する建物や遺跡等の保存に熱心であった萩市はこのような状況を憂い、次第に歴史的まちなみの保存の思いを募らせていきました。

そこで、昭和47年に「萩市歴史的景観保存条例」を制定し、堀内や平安古の武家屋敷地区や毛利家の菩提寺のひとつである東光寺の周辺地区、江戸期の運河藍場川周辺地区など数地区を「歴史的景観保存地区」に指定し、歴史的まちなみの保存に着手しました。その後、昭和50年の文化財保護法の改正により、歴史的まちなみが文化財のひとつとして定義されるとともに「伝統的建造物群保存地区」の制度が定められました。その中から国が「重要伝統的建造物群保存地区」として選定し、その保存整備が進められています。

昭和51年に堀内地区と平安古地区は全国で最初の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されました。また、平成9年3月策定の萩市都市景観基本計画では、江戸期の商家が残る浜崎の景観保存が提唱され、地区住民とともにまちなみ保存活動を展開し、平成13年に浜崎は萩市で3番目の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されました。

このように、萩市は先達から受け継いだ歴史的まちなみを、私たちの歴史と文化を表す大切な遺産として、市民とともに保存し後世に引き継ぐため、ひたむきな努力をしています。



浜崎地区 連続立面図：門内西側（1970年当時：小池亮氏作成）

◆国の選定 昭和51年9月4日 武家町 伝統的建造物／建築物13件・工作物(土塀、石垣等)30件 環境物件(生垣等)16件

平安古地区

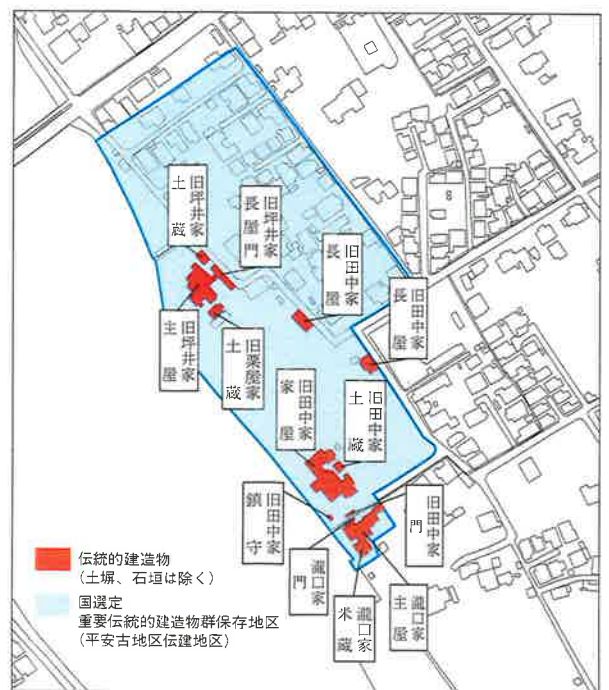


旧坪井家長屋門

平安古地区は、旧萩城三の丸を囲む外堀の南に位置する地域で、外堀の平安古の総門から南東に、橋本川とほぼ平行に基軸となる道が造られ、その両側に屋敷が建ち、町が形成されました。北部には町人地が配され、南部には武家地が作られました。平安古の武家地には約140軒の武家があり、そのうち1,000石以上の武家は4軒、150石から450石までの中級武家が43軒(3割)、40石から150石までの中下級武家が46軒(3割)を占めていました。この地区には、毛利筑前(石高16,000石)の下屋敷や寄組、大組の武家屋敷が立ち並んでいましたが、現在でもそれら武家屋敷の主屋、長屋門、長屋、土蔵が、鍵曲を構成する長い土塀とともに残っており、藩政期の姿をよく留めています。明治期になって士族救済のために始められた夏みかん栽培は、この平安古の毛利筑前下屋敷で、明治9年に藩士小幡高政によって初めて行われたものです。平安古地区も、武家屋敷と土塀と夏みかんという歴史的風致をよく表わしており、堀内地区と同様に昭和51年に全国で最初に重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。選定地区は、平安古中央部の橋本川に沿った区域であり、東西140m、南北300m、面積は約4.0haです。



平安古鍵曲



◆国の選定 平成13年11月14日 港町 伝統的建造物／建築物135件・工作物(石垣、灯籠、玉垣等)57件 環境物件(庭園、樹木)16件

浜崎地区



浜崎 本町筋

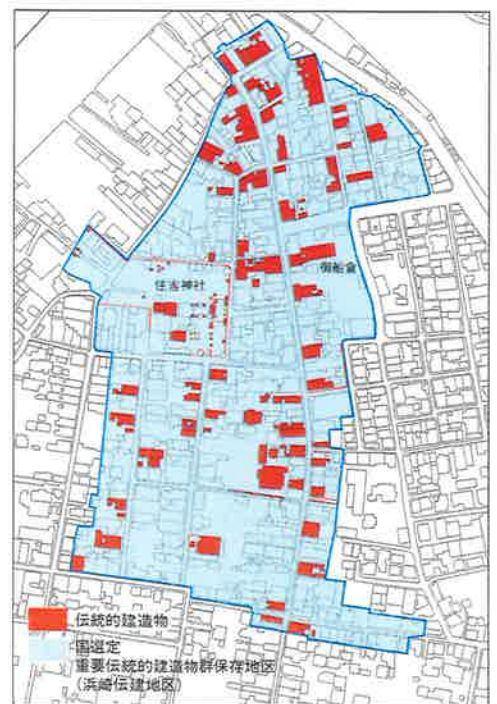
浜崎地区は、阿武川河口三角州の北東端の砂洲に、港と港町がつけられたことが起源です。町の建設は早く、文献に最初に登場するのは寛永14年(1637年)であり、萩城下町初期の様子を描いた慶安5年(1652年)の「萩絵図」には御船倉を中心とした浜崎一帯は、「町」の成立が確認できます。町は南北に走る本町筋を中心に形成され、本町筋の北東に藩主御座船を格納する御船倉と舟入、その北に船や商品を管理する御番所、魚市場、渡し場が設置されました。浜崎は、町奉行に管轄された萩城下とは異なり、浜崎幸判の管轄下に置かれ、御船倉に代官所が設けられました。17世紀中ごろに、本町筋に泉福寺が、また本町筋西側には住吉神社が勧請され、住吉神社の南側には三本の道筋を軸に浜崎新町が形成されました。

江戸時代の浜崎は、北国船の廻船業や、酒・味噌・醤油などの物資の商い、魚市場を中心とした水産業等で栄え、藩の経済を担っており、嘉永4年(1851年)には358軒の家がありました。明治以降も商業、漁業、水産加工業、中国大陸との貿易などで繁栄を続け、大正から昭和初期にかけて最盛期を迎えました。

選定地区は、江戸や明治期の町家のまちなみが残っており、町家主屋、付属屋、土蔵等の計117棟が伝統的建造物に指定されています。そのうち江戸期のものが45棟程度あります。区域は、東西約320m、南北約530m、面積約10.3haです。



浜崎 旧門町



歴史的まちなみの 修理・修景保存事業

堀内地区及び平安古地区は、昭和52年度から、浜崎地区は、平成14年度から建築物や工作物（土塀、石垣等）及び自然物の修理・復旧等に補助金を交付し保存に努めています。

また、浜崎地区は、平成11年度から伝建地区の区域も含めて、街なみ環境整備事業を導入して、浜崎の文化と歴史的まちなみを保全しながら、道路・公園・集会所・公衆トイレ等の地域環境施設の整備を進めており、ゆとりとうるおいのある住環境の形成に努めています。



街なみ環境整備事業で整備したおふなぐら公園（浜崎地区）



修理した
旧田中別邸
（平安古地区）



修理した
土塀・門
（堀内地区）

市内の観光スポット



指月公園



松下村塾

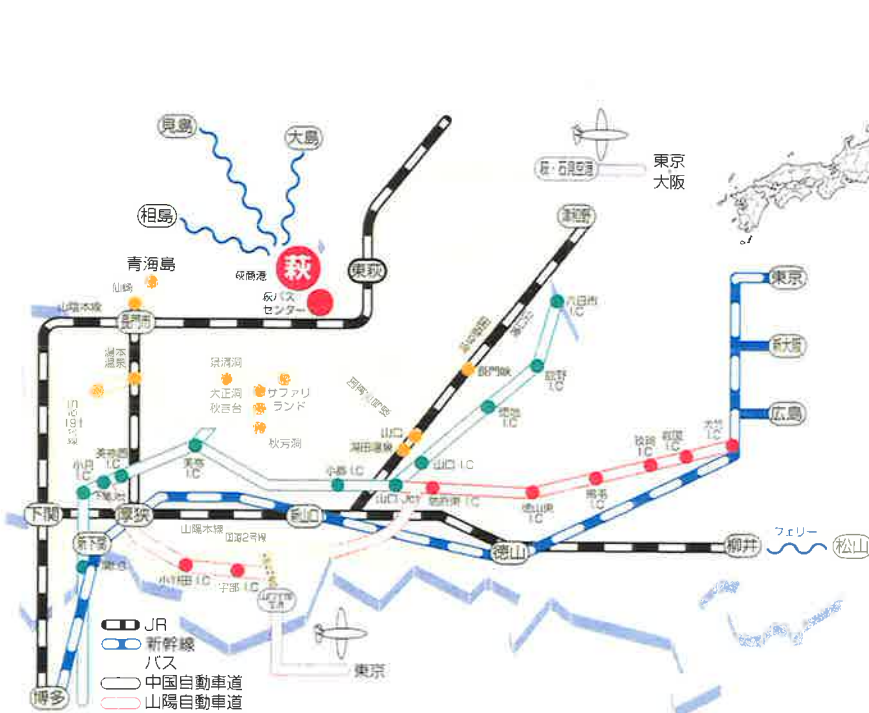


東光寺



藍場川

交通アクセス



● 高速バス

東京 ↔ 萩 大阪 ↔ 萩 広島 ↔ 萩

<お問い合わせ先>

防長交通(株) バスセンター案内所
☎ (0838) 22-3816

● 直行バス

萩・石見空港 ↔ 萩

<お問い合わせ先>

石見交通株式会社
☎ (0856) 24-0080

JR新山口駅 ↔ 萩

<お問い合わせ先>

防長交通(株) バスセンター案内所
☎ (0838) 22-3816

● 中国自動車道 山陽自動車道

九州方面 → 美祿IC → 約50分 → 萩

広島・大阪方面 → 防府東IC → 約70分 → 萩

● 飛行機

東京・大阪 萩・石見空港 → 約80分 → 萩

東京 山口宇部空港 → 約40分 → 新山口駅 → 約70分 → 萩

観光カイト

● (社)萩市観光協会
〒758-0061 萩市大字椿3537番地の3
☎ (0838) 25-1750

● 萩観光ボランティア協会
〒758-0011 萩市大字椿東1511-1
(伊藤博文別邸内)
☎ (0838) 25-3527

観光案内所

(社)萩市観光協会 ☎ (0838) 25-1750
萩旅館協同組合案内所 ☎ (0838) 22-7599
萩民宿組合 ☎ (0838) 25-1534
萩市観光案内所 ☎ (0838) 25-3145

萩市重要伝統的建造物群保存地区

発行：萩市まちなみ対策課

〒758-8555 山口県萩市江向510番地

TEL (0838) 25-3238 FAX (0838) 26-5722

e-mail machi-nami@city.hagi.yamaguchi.jp

萩市公式ホームページ <http://www.city.hagi.yamaguchi.jp/hagicity/>